

設立 30 周年記念 高須幸雄氏講演会・シンポジウム

2022 年 12 月 9 日(金) 13:30~16:30

熊本県立劇場コンサートホール

【お祝いメッセージ】高須大使

熊本県ユニセフ協会の活動は、熊本から意識を変えようと街頭キャンペーンパレードやハンドインハンドなど積極的な取り組みをされている。

世界で経験したことのない危機的状況の中で、人道支援を必要としている 390 万人の子どもが困った生活をしている。ウクライナの支援活動も厳しい冬に入っていて長期的影響が心配され、これからの計画が発表され支援を求められている。

温暖化により前例のない大きな洪水、地滑りが発生し大きな脅威にさらされている。アフリカ大陸では干ばつに襲われかちくのえさ、人々の食糧が奪われ、南太平洋の島国では氷が溶けて海面上昇し、多くの気候難民が発生している。ウクライナ戦争により世界中の燃料、食糧の価格が絶望的高騰を続けている。

そんな中、熊本県ユニセフ協会が子どもの権利を守る活動を続けられ、頑張っていかれることを期待したい！

【ビデオメッセージ】蒲島知事

SDGs 推進の登録事業者が 1600 にもなりトップレベルの個人団体の表彰や熊本 SDGs アワードの表彰も行われた。熊本は SDGs に対する意識が日本で一番高く世代を担う高校生のパワーが必要であり期待している。誰一人取り残されない世界を目指して頑張ってもらいたい！

【基調講演】高須幸雄氏

今の日本の現状は、熊本の現状は、地球、世界はどうかについてしっかり知っておくべきだと思う。コロナも 3 年目となり保健・経済に影響を与え、戦争により世界は 30 年間の中で今までになかった現象が起きている。

寿命や所得は伸び続け人間の開発は着実に進んだ。しかしリーマンショックやコロナや温暖化により 9 割の国の所得、教育、健康保険は後退し悪化した。これは大きなインパクトだ。

世界の平均気温は 1~2°C 上がった。特に人口の多いところが変わっている。そして作物に影響が出ている。

表現の自由、集会の自由の場が減っている。6%に当たる日本、台湾、韓国、ニュージーランド、オーストラリア、南太平洋いくつかの国しか表現の自由がある恵まれた環境が与えられていない。

1992 年に環境にやさしい世界を目指して「国連環境開発会議」が開催され、2000 年にミレニアム開発目標で途上国の貧困撲滅が挙げられ、2015 年に SDGs 開発目標が設定された。SDGs は先進国を含む包括的なものになった。これは人間の安全保障がバックにある。国が安全保障条約を結び国の安全を守るという重要なもので消極的平和ともいわれる。

人間の安全保障は軍力だけでは足りない。脅威を人のレベルで考える、人間らしい生活をする、尊厳を守るという積極的平和を目指して私は 20 年間やってきた。

SDGs 目標 17 の中で何を目標にするか、2030 年までに何を達成させるかを考えることが大切である。環境を包括的に捉え全ての人の命、尊厳を守ることが SDGs に繋がる。

地域で特色があるため理念にどれだけ近づいているかに差がある。日本全体を見るだけでは不十分。全ての人に健康・教育・ジェンダー・平等・公正な社会が与えられるべきで、一人一人の尊厳が追及されるべきである。SDGs は誰も取り残されない社会にいかにか近づくとという道筋であり、日本は追加的努力をしなくても達成している。これを指数化してどこが改善する必要があるかを作業している。都道府県レベル、市町村レベル、地区レベルで客観的だけでなく主観的な部分でも調べなければならない。

自己充足度、将来に前向きか、相談できる人がいるか、助け合うことがあるか等について、47 都道府県中熊本県の安全保障対策は 28 位で尊厳性は低い。主観的連携性は強い。自己充足度が高いのは熊本地震を経験して不自由な思いをしたためと思われる。

男性が週に家事育児を 23 時間しているかは残念なことに全国で最下位であった。

女性地方議員の数が少なく、健康保険の滞納者が多いことは残念だ。

世界的な会議で日本の代表は男性ばかり！政治のプロセスでは 147 位、経済界の管理職は 139 位、賃金は 83 位と女性進出が出来てないことが分かる。

教育では女性の理数系が少ない。

子どもはどうかというと、学力、運動は優れているが精神的幸福度は最下位である。競争原理に重きがおかれているため満足度は 50%。

日本の家庭の経済状況では、家庭平均半分以下の相対的貧困が増えており、家庭・学校・社会において生きづらい生活を強いられている。

自己肯定感をいかに高めるか、褒められたことのない子どもにとっては高めることは難しい。子どもの権利条約を全員学ぶことが大切である。

命を守られる権利・生きる権利・育つ権利・参加する権利。子どもは大人と同じ権利を持っている。子どもは自由にして生まれ人生を選択できる。尊重されるから大事にされる。(動物とは違う)優劣の差をつけてはならない。

熊本は SDGs の認知度が日本で一番高い！

尊厳を守ることが SDGs に繋がる。誇りを持つ、自信を持つことが大切。

調べたこと、学んだことを考える→それを発表する→自分の周りの人に伝える

この行動をしてほしい！

いくら良い知恵があっても説明しなければ価値は半分しかない。言わないと何にも考えられない人とみなされる。一人ひとり能力を持っているのだから行動することで周りも変わる！国も変わる！

地域を動かし、県を動かす！命・生活・尊厳に対して今日のことが考えるきっかけになれば嬉しい。

【実行委員長 挨拶】 R.K.(ルーテル学院高校 2 年)

8 月から第 3 期の実行委員長をしている。

最近の異常気象、気候変動やリサイクル、人間の尊厳について 6 回にわたり意見交換して知識を深め、課題について具体的解決方法を探るため、企業訪問やアンケートによって具体的データを取った。

高須大使に途中経過を発表し、アドバイスを基に試行錯誤しながら沢山考え、学んだ。

今日のシンポジウムで新たな発見があると思うので楽しんで聞いて欲しい。

【温暖化・リサイクル】 K.K(熊本北高校 2 年)

地球温暖化の原因と現状について

国連によると、地球温暖化の要因は温室効果ガスの排出によるものが最も大きく温室効果ガスが地球を覆うことで太陽の熱が閉じ込められ温暖化が進行する。温室効果ガスの約 76%が CO₂であり世界各国は CO₂排出抑制対策をしている。

CO₂排出は化石燃料を燃やすことによる発電が電力を支えており、化石燃料は農機具、漁船、飛行機や自動車などの交通手段にも使用されている。

もう一つは森林伐採。樹木がため込んでいた炭素が一気に放出され、森林は CO₂を吸収するため伐採すると全体的な CO₂の量が増えることになる。

産業革命が起こってから地球の気温は 1.2°C 上昇している。上昇が 1.5°C になると地球は限界を迎え人類が生活できない状況になる。

実際に熊本でも人吉の球磨川で異常気象による河川の氾濫が起こった。8 割が氷でできているグリーンランドでは 1 年で 5320 億トンの氷が溶けた。オーストラリアでの山火事やシベリアの異常気温も挙げられる。

2030 年までに温室効果ガス半減、2050 年までに温室効果ガス実質ゼロの目標を上げている。容易ではないが前向きに進むしかない！

コロナ禍やウクライナ戦争で計画通りにはいかないが、社会の仕組みを丸ごと変えるエネルギー転換が必要で、再生可能なエネルギー転換への投資が必要である。

事業所訪問 Y.N(ルーテル学院高校 1 年)

(永野商店)

日々山のように排出されるペットボトルやプラスチックの想像を絶する量は何とかならないかという思いがゴミのリサイクル会社永野商店の訪問に繋がった。1 日 6 トンものペットボトル回収をしておりプラスチック資源環境促進法によりボトル To ボトルへの取り組みがされている。瓶の洗浄、間伐材をチップにしてバイオマス発電、古紙のリサイクル、可燃ごみ処理もされている。処理に使われる電力は太陽光パネルの自社電力で賄っていること、GPS を活用して各車両の走る距離を出来るだけ短くして排気ガス減少に繋がる企業努力をしていることが分かった。

自分たちに出来る、水切りをする、分別ごみを徹底する、フードロスをしらないなどやっつけていかなければならないと思った。

(ブリッジ熊本)

ブリッジ熊本は熊本地震をきっかけに設立された。被災地域の復興、創造的な実現を目指して全国の被災地域や企業と連携し、デザインの力で社会問題にチャレンジする会社だ。熊本地震の時に使われたブルーシートをエコバックに変え販売され、売り上げの 20%が被災地、障害者の方の賃金となっている。

他にもアップサイクルとして、水没切符で切り絵アート作品を作るなど付加価値を付けて取り組みを行っているが大量生産ができないためコストパフォーマンスに課題がある。

(熊本トヨタ)

熊本トヨタでは独自の視点である LCA(ライフサイクルアセスメント)つまり商品に至るまでのライフサイクルにおける環境負荷を数値に表し確定するという取り組みを大切にされている。

問題としてガソリン車は走行時、電気自動車は製造時に同じ量の CO₂を排出している。またガソリン車を製造していた子会社の働き場を奪うという問題も出てくる。

そうしたことから電気自動車を今すぐ推し進めるのではなく、ガソリン車、電気自動車の生産の均衡を保つことが大切だと学んだ。

学生である私たちに出来ることは、簡単なことで良い、正しく理解するだけでもいい、学校や地域、企業などと繋がりながら少しでも環境に対して意欲的に身近なところから活動していきたいと思った。

温暖化対策(自分たちに出来ること) K.T(熊本第一高校2年)

- ゴミの分別をすることで限りある資源を生かしゴミの量を減らすことができる。(埋立地の延命)
- ペットボトルの洗浄とラベルをはがすことで効率的リサイクル。
- 生ごみの水気を切ることで燃焼時間の短縮
- 水を出しっ放しにせずコップに溜める。(1ヶ月で約1.3kwhの節電)
- 短い距離の移動は徒歩や自転車、遠くは公共交通機関を利用。(CO₂排出削減)
- マイバック・マイボトル所持。
- 服や物、食品を買い過ぎない。

(企業・事業所へ要望)

- 物を作り過ぎないことと個包装や過剰包装をなくす。
- プラスチック製品を環境に優しい素材に変える。

(行政へ要望)

- 公共交通機関の整備と環境に優しい交通手段の利用を促す対策をしてほしい。

私たち若い世代が声を上げてこの現状を皆に知ってもらわなければ、伝えなければ何も変わらない。環境に優しい商品を買うことでその企業を応援したり、環境対策に力を入れてる政治家を応援したり少しでも行動を起こしたい。

先月エジプトでCOP27が開催され、温暖化で移住を余儀なくされた人々は3070万人で武力紛争で移住した人の3倍に当たることが発表された。

「人類を危険にさらしているのは汚染をまき散らしている先進国である」と後進国は主張した。途上国は温暖化の原因になることは何もしていないのに先進国のエネルギーや産業政策のために命に関わる状況になっているのはおかしいと思う。弱い立場の人の人権をこれ以上奪ってはいけないと思う。これからも世界の動きに関心を持って自分に出来ることをやっいていこうと思う。

【企業より】星子桜文氏

廃食油からディーゼル燃料にする地球に優しいバイオエネルギーの取り組みを2010年からやっている。排気ガスから天ぷら油の臭いがしたのがきっかけでこの仕事をするようになった。

燃料を熊本県立大に持って行き調べてもらった。高純度のディーゼル燃料を開発し車のエンジンを改良することなく直ぐに使用できるメリットを生かしてCO₂削減に生かしたい。

九州で100カ所しか車輻に燃料が入れないので増やしていかなければならない。地域で燃料を作れる体制を取らなければならない。

阿蘇働く車の燃料や空港での燃料に使われている。

電気自動車は火力発電だがディーゼル100%のクリーンエンジンは移動式充電器として利用できる。

廃食油はゴミではなく資源という感覚を定着させたい！油田スポットは1000件にも上っている。

幼稚園で廃油を集めてスクールバスやトラクターの燃料にしている。「廃油エネルギーになってぐるぐる回る仕組みを循環というんだよ！」と言う3歳の園児の言葉に勇気づけられる。未来の気候変動に向けて誰でも活動できることだと思う。

廃食油の行方は事業系と家庭系に分かれている。

事業系→海外の取引先はCO₂削減のために導入を進めているので高値で買ってくれる。

家庭系→11万トンの廃棄分を何とかディーゼルにしたい。

(わくわく油田プロジェクト)

家庭やお店の使用済み天ぷら油を回収して環境負荷の少ない良質なバイオディーゼル燃料として生まれ変わらせ地産地消のエネルギーとして活用推進するプロジェクト

未来のためにこの循環を生かしたい！

気候変動は全ての生活圏に寄与している。どうやって解決していくか、行動を起こしていくか、一緒に取り組みを知って、考えて応援していかなければ明るい未来はない。

【ジェンダー】T.R(大津高校3年) H.T(熊本第一高校1年)

ジェンダーという言葉で、皆さんは男らしさ、女らしさ、ジェンダーレス制服、LGBTといったことを想像したかもしれない。

はじめの活動でジェンダーに対して感じていたことを話し合い、学校生活や家庭での男女格差があることを確認した。具体的には制服問題や家庭での家事・育児の負担時間が女性に偏っていることだ。ジェンダー問題について詳しく知るために、千原台高校とYWCAのジェンダー委員会へ訪問させてもらった。千原台高校ではLGBTをはじめとする性的マイノリティーの問題や基礎知識を学んだ。ソジハラという差別的な言動や嫌がらせ、カミングアウトされた時の対応などをワークショップ形式で体験しより身近に感じる事ができた。

YWCA訪問では、日本の男女の進学率の差や文系・理系の割合に違いがあることが分かった。本人の成績に関係なく男子は大学まで、女子は短大で良いと考える親や先生の考え方がまだ残っているようだ。そして女子が高学歴だと恥ずかしいという風潮があるのには驚きだ！

政治分野では日本は世界的に見ても女性が政治に参加しづらい空気感があることが問題だ。衆議院における女性の国会議員の割合は10人に1人(9.9%)であるが、ニュージーランドやスウェーデンは5倍位の女性議員がいることは見習っていきたい。

意識していなくても傷つけているアンコンシャスバイアスがジェンダーの大きな原因になっていることが分かった。身近でジェンダー差別をしていないか見直し続けることが必要である。

誰も取り残されない社会や自分らしく生活できる社会を形成するためにも性による先入観をなくし仕事や家事などの平等に分担していくことが大切だ。

女性の社会進出を拒まず、誰もが居心地よく働くことができる環境作りを整えることが大切である。自分たちに出来ることはジェンダーカフェやからふるスペース、ウィメンズマーチや九州レインボープライドなどの活動に参加することだ。

ジェンダーの問題だけではなく、世界で起こっている児童婚や人身売買、性暴力や虐待などを調べ自分たちの問題であると捉えることが重要なことだ。

【幸福度】 M.Y(熊本第一高校2年) K.T(熊本第一高校2年)

「幸福度」という言葉はとても難しい。人それぞれなのに、一体何を基準に「幸せ」と判断するのか。「多くの人が幸せを感じるには」というのを一応のゴールとし「幸福度」についてアンケートを実施した。

ユニセフが行った「子どもの幸福度」調査では、日本の子どもの身体的健康は38ヶ国中1位と素晴らしい順位であるにも関わらず、精神的幸福度は37位である。まさに両極端で矛盾しており、日本人の特性として自己肯定感が低いことが原因として挙げられるのではないかと私たちは考えた。

市内の三つの高校の学生を対象としたアンケート結果では、自分の誇りに思うところがあるかという質問にあるが30%、自分は社会にとって必要な存在かという質問にそう思うと答えた人は15%未満と私たちの身の回りにも自己肯定感が低い人が多いことが分かり、そのことが幸福度の低さに繋がっているのではと考えた。

今の睡眠に満足しているかの質問に対して満足しているは30%しかなかったのも印象的だった。睡眠時間の少ない理由として勉強、宿題、部活等の学校生活で多忙を極めており、その忙しさによる睡眠時間の少なさも日本の子どもの幸福度を下げている原因の一つだと考える。

自分は社会にとって必要な存在かという質問に対して、マイナスな回答をしている人の中では、ポジティブだと思うか、などの内面や性格面での質問に対して曖昧な回答をしている人が60%以上もいた。社会にとって必要な存在だと思えてない人は自分に自信がない人で誇りに思えない、だから自信がないと負のループになってしまう。誰でも誇りに思えるところは持っているので、周囲の友達や家族が凄い！おかげで助かった！嬉しい！教えて欲しい！有難う！などの言葉で伝え合って気付いてもらいたい。嬉しいのループを作ってほしい。

「幸せ」と言えるようになるにはどうしたらいいか。自己肯定感が低いことが関係しているならそこを上げるために笑顔や有難うの言葉など、小さな日常を大切にすることから始まるのではと思う。プラスの内容の言葉を口にする、挨拶をする、感謝の言葉を伝える、笑顔を心がける、このような笑顔ループ、幸せのループを作ることによって幸せを感じる人が増えたらいいと思う。

「孤独だと感じることはない」や「孤独だと感じていても辛いとは思わない」という回答が多かったことについても今後機会があればもっと考察していきたい。

【住みやすいまち】 M.T(熊本第一高校2年) S.F(熊本第一高校2年) O.F(熊本工業高校2年)

私たちは安全に、そして安心して暮らせるまちづくりをテーマに考えた。

SDGsの11番目にあるように防災にも強いまちを意識し、「交通」「防災」「子ども」をキーワードに住みやすいまちづくりを考えたい。

「交通」

自転車で通学する人も多いと思うが、デコボコだったり、人と接触するくらい道が狭かったり走りづらいと思うことがある。事故防止の対策や自転車専用道路の設置など課題はたくさんある。子どもの利用が多いバスや電車などの公共交通機関において、子どもが利用しやすいものにするべきで子供専用車両の対応をする必要があると思う。子どもには車内でのマナーを守らせることで安全な利用が出来るのではないか。

「防災」

災害に強いまち＝住みやすいまち と言えるのではないか。

大きな災害が発生すると、電気やガス水道などのライフラインが途絶えてしまったり、避難せざるを得ない状態になる。2016年の熊本地震で沢山の人を経験した。そこで必要だったのは近隣の人との支え合いだった。実際に地域との日頃からの交流が大きな支え合いになり絆が生まれた。そういったまちづくりするためには、子どもや高齢者、外国人等がいる家族を互いに把握し、いざとなった時に支え合える関係を築くという方法があると思う。定期的に防災訓練をしたり住民同士の関わりを密にすることで防災を意識した地域社会の繋がりが必要である。

「子ども」

子どもそしてその家族にとって住みやすいまちは福祉・医療などの充実が挙げられる。子どもの周りの大人たちと良い関係、関わりがあることが大切だ。

過疎化が進んだ地域では、働き手不足で生活の質が衰え、逆に過密地域では住宅不足やごみ問題が発生する。子どもが住みやすい環境だと移住する人も増え人口の分散にも繋がり問題解決の一步となると思われる。

【行政】(熊本市)

SDGsの達成に向けた熊本市の取り組み

九州・沖縄地方のSDGs未来都市 福岡5 熊本8 鹿児島4 沖縄3 長崎2

(熊本が一番多い)

佐賀・宮崎・大分 0

熊本県内のSDGs未来都市 小国町、熊本市、水俣市、菊池市、山都町、南阿蘇村
八代市、上天草市

熊本市のモデル事業(ライフライン強靱化プロジェクト)

※平時には温室効果ガスの削減、災害時にはEVを活用し避難所等での電力の確保

※大規模災害時⇒充電拠点からEV、EVバスを避難所等へ

①地域エネルギーの地産地消

②EVの電力供給に係る官民連携事業

③EVバスの運行事業

地下水保全の取り組みの見える化と深化

※広域連携による地下水の質や量を保全し、その魅力や取り組みを国内外に発信する。

①地下水及び公共用水域の水質保全

②地下水量の保全

③広域連携や協働による地下水の保全

SDGsを知っている熊本市民の割合が平成30年度5.9%⇒令和3年度57.8%(51.9ポイント増)

SDGsに積極的な企業の割合(熊本県)⇒ここ1年で倍増し全国1位になった!

「問い方マジック」は日常生活、政治の世界、学問の世界にもあふれているが、自分は絶対正しいと思わないで互いに共通の理解(了解)を持つことが大切!

社会・経済 どちらも取り入れる

経済と環境 二項対立ではなくバランスよく取り組むことが重要!

誰一人取り残されない持続可能な社会の実現のためには、対話を通し、共通了解を見出し、統合的に取り組むことが重要!!

【市長メッセージ】

熊本県ユニセフ協会が設立 30 周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

30 年の長きにわたり子どもの権利が保障される世界の実現を目指し、募金活動や様々な社会貢献活動に多大なるご貢献をいただいた。

新型コロナや国際紛争に加え気候変動に伴う災害の多発さらには、世界的な食糧危機が懸念されるなど人間の安全保障と尊厳が脅かされている。このような中で、ユニセフの「顔」や「代弁者」として活動しているユニセフ協会の重要性はますます高まっている。

本日 SDGs をテーマとしたご講演やシンポジウムは大変意義深く、SDGs の達成に向けて行動する契機になると大いに期待する。

本市は、「SDGs 未来都市」に選定され取り組みを進めているので、引き続きご協力を賜りたい。